

令和6年度 調布市立神代中学校 年間指導計画 1年 書写

月	単元名・教材名・指導目標	時数	学習活動	評価規準
4月	1. 読みやすく書くための楷書			
5月	【やってみよう】 漢字を分解してみよう (教科書 P38-39) ◎点画の種類を確かめ、穂先の向きや筆圧などに注意して点画を書くことができる。[知技(3)エ(ア), (1)イ]	毛筆 3	1 教科書の図を見て、漢字は点や画の組み合わせでできていることを確かめる。 2 漢字を構成する点画の名称と筆使いのポイントを確認する。 3 穂先の向きと筆圧に気をつけて、小学校で学習した点画を毛筆で書く。	【知】 点画の種類を確かめ、穂先の向きや筆圧などに注意して点画を書いている。 【思】 (点画を書くなかで、穂先の向きや筆圧などを確かめている。) 【態】 進んで(①)穂先の向きや筆圧などを確かめ(③)、学習課題に沿って(②)点画を書こうとしている(④)。
	漢字の筆使い (教科書 P40-43) ◎点画の種類を確かめ、漢字の筆使いに注意して楷書で書くことができる。[知技(3)エ(ア), (1)イ]		1 漢字を構成する点画の名称を教科書に書き込む。 2 「学習の窓」を見て、漢字の筆使いのポイントを確認する。 3 漢字の筆使いに注意して、毛筆で「天地」「春風」を書く。 4 毛筆で学習したことを生かして、硬筆で「天地」「春風」「探究」を書く。	【知】 点画の種類を確かめ、漢字の筆使いに注意して書いている。 【思】 (毛筆で「天地」「春風」を書写するなかで、漢字の筆使いを確かめている。) 【態】 進んで(①)漢字の筆使いに注意し(③)、学習課題に沿って(②)「天地」「春風」を書こうとしている(④)。
	楷書に調和する仮名(いろは歌) (教科書 P44-45) ◎楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して、整えて書くことができる。[知技(3)ア, エ(ア)]	毛筆 2	1 「いろは歌」の成立や平仮名の字源について理解する。 2 「学習の窓」を見て、楷書に調和する仮名の筆使いと字形のポイントを確認する。 3 「結び」や「曲がり」「折り返し」の筆使いを確認する。 4 楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して、小筆で「いろは歌」を書く。	【知】 楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して、整えて書いている。 【思】 (小筆で「いろは歌」を書くなかで、楷書に調和する仮名の筆使いや字形を確認している。) 【態】 積極的に(①)楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して(③)、学習課題に沿って(②)「いろは歌」を書こうとしている(④)。
6月	文字の大きさと配列(俳句) (教科書 P46-47) ◎文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書と楷書に調和する仮名で書くことができる。[知技(3)ア, エ(ア), (1)イ]	毛筆 2	1 教科書 P46 の「夏の夜や…」を見て、どこを直すと読みやすくなるかを考える。 2 「学習の窓」を見て、文や文章を読みやすく書くための、文字の大きさや配列のポイントを確認する。 3 必要に応じて、墨のすり方を確認する。 4 文字の大きさと配列を意識して、小筆で「夏の夜や…」を書く。	【知】 文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書と楷書に調和する仮名で書いている。 【思】 (決められたサイズの用紙に俳句を書くなかで、文字の大きさ、配列などを確かめている。) 【態】 進んで(①)用紙に合った文字の大きさ、配列などについて考え(③)、学習課題に沿って(②)小筆で俳句を書こうとしている(④)。
7月	【コラム】文字の歴史を探索 (教科書 P48-49) ◎漢字の書体の変遷や仮名の成立について理解することができる。[知技(3)エ(ア)・(イ)]	毛筆 1	1 漢字には 3000 年以上の歴史があり、時代とともにさまざまな書体が誕生したことを知る。 2 日本独自の文字である仮名が、漢字を元にして誕生したことを知る。 3 篆書・隷書・草書が生活の中で使われていることを知り、身近な使用例を探索。	【知】 漢字の書体の変遷や仮名の成立について理解している。 【思】 (文字の大まかな歴史を確かめている。) 【態】 積極的に(①)文字の歴史について知ろうとし(③)、学習課題に沿って(②)身近な使用例を調べようとしている(④)。
	【学校生活】目標を書こう (教科書 P50) ◎今までに学習した知識・技能を生かして書くことができる。[知技(3)エ(ア), (1)イ] ○日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。[B(1)ア]	適宜	1 教科書 P50 の例を見て、目標の書き方を理解する。 2 目標(個人・グループ・学級)を考え、読みやすさを意識して、用紙・筆記具・文字の大きさや配列を考える。 3 これまでに学習したこと(漢字の筆使い／楷書に調和する仮名／文字の大きさと配列)を生かして、目標を書く。	【知】 今までに学習した知識・技能を生かして書いている。 【思】 (目標を書く活動のなかで、今までに学習した知識・技能の生かし方を考えている。) 【態】 進んで(①)習得した知識・技能を振り返り(③)、今までの学習を生かして(②)目標を書こうとしている(④)。

月	単元名・教材名・指導目標	時数	学習活動	評価規準
9月	2. 読みやすく速く書くための行書			
	【やってみよう】 速さを比べてみよう (教科書 P52-53) ◎漢字の行書の基礎的な書き方を学ぶ意義を理解することができる。[知技(3)エ(ア)・(イ), (1)イ, A(2)イ]	毛筆 2	1 書く速さを意識して、一画ずつ丁寧に楷書で「春・夏・秋・冬」を書く。 2 できるだけ速く「春・夏・秋・冬」を書く。 3 1と2で書いた文字を比べて、速く書いたときの文字の特徴を話し合い、速く、読みやすく書くことができる行書を学ぶ意義を理解する。	【知】漢字の行書の基礎的な書き方を学ぶ意義を理解している。 【思】(二つの速さで書き比べる活動のなかで、両者の形の違いを確かめている。) 【態】積極的に(①)速く書いたときの文字の特徴を捉え(③)、学習の見通しをもって(②)行書を学ぶ意義について話し合おうとしている(④)。
	行書の特徴 (教科書 P54-55) ◎漢字の行書の特徴を理解することができる。[知技(3)エ(イ), (1)イ, A(1)オ(2)イ]		1 楷書と行書で書かれた「緑」を比較して違いを見つけ、話し合う。 2 「学習の窓」を見て、行書の特徴を理解する。 3 行書で書かれた「緑」を指でなぞり、行書の特徴を確かめる。 4 教科書 P55 下段を見て、今後の学習内容を知る。	【知】漢字の行書の特徴を理解している。 【思】(行書で書かれた「緑」をなぞるなかで、行書の特徴を確かめている。) 【態】積極的に(①)楷書と行書の違いを考え(③)、学習課題に沿って(②)行書の特徴を話し合おうとしている(④)。
10月	丸み・点画の連続 (教科書 P56-57) ◎漢字の行書の基礎的な書き方(丸み・点画の連続)を理解して、身近な文字を書くことができる。[知技(3)エ(イ), (1)イ]	毛筆 2	1 行書で書かれた「一」を指でなぞり、楷書との筆使いの違いを理解する。 2 「学習の窓」を見て、点画が丸みを帯びる理由と、行書で書くときの留意点を確かめる。 3 丸みを意識して、毛筆で「一」を書く。 4 行書で書かれた「二」「口」を指でなぞり、楷書との筆使いの違いを理解する。 5 「学習の窓」を見て、点画が連続する理由と、主な連続の仕方を確かめる。 6 点画の連続を意識して、毛筆で「二」「口」を書く。 7 毛筆で学習したことを生かして、硬筆で「一」「三」「日」「口」を書く。	【知】漢字の行書の基礎的な書き方(丸み・点画の連続)を理解して、身近な文字を書いている。 【思】(毛筆で「一」「二」「口」を書くなかで、行書の特徴<丸み・点画の連続>を確かめている。) 【態】進んで(①)行書の書き方(丸み・点画の連続)を理解し(③)、学習課題に沿って(②)「一」「二」「口」を書こうとしている(④)。
11月 12月	点画の変化 (教科書 P58-63) ◎漢字の行書の基礎的な書き方(点画の変化)を理解して、身近な文字を書くことができる。[知技(3)エ(イ), (1)イ]	毛筆 3	1 楷書と行書で書かれた「大木」を比較して、点画(終筆の形)が変化している部分を鉛筆で囲み、形が変化する理由を話し合う。 2 「学習の窓」を見て、点画の終筆の形が変化する理由と、主な変化の仕方を確かめる。 3 行書には多様な書き方があることを理解する。 4 点画の終筆の形の変化を意識して、毛筆で「大木」や「北西」「月光」を書く。 5 毛筆で学習したことを生かして、硬筆で「大木」「北西」「月光」を書く。	【知】漢字の行書の基礎的な書き方(点画の変化)を理解して、身近な文字を書いている。 【思】(毛筆で「大木」「北西」「月光」を書くなかで、行書の特徴<点画の変化>を確かめている。) 【態】進んで(①)行書の書き方(点画の変化)を理解し(③)、学習課題に沿って(②)「大木」「北西」「月光」を書こうとしている(④)。
1月 2月 3月	【国語】季節のしおり 1 (教科書 P64-65) ◎今までに学習した知識・技能を生かして書くことができる。[知技(3)ア, エ(ア)・(イ), (1)イ]	硬筆 1	1 季節にまつわる詩歌や言葉を音読して味わう。 2 これまでに学習したこと(楷書の筆使い／楷書に調和する仮名／文字の大きさと配列／行書の特徴)に注意して、楷書・楷書に調和する仮名、行書で季節の言葉を硬筆でなぞる。	【知】今までに学習した知識・技能を生かして書いている。 【思】(季節の言葉をなぞる活動のなかで、今までに学習した知識・技能の生かし方を考えている。) 【態】積極的に(①)習得した知識・技能を振り返り(③)、これまでの学習を生かして(②)季節の言葉をなぞろうとしている(④)。